

伊勢市観光振興基本計画

「多様な主体を受け入れ、常若の精神とにぎわいにあふれるまち」を目指して

概要版

令和4年3月



第1章 はじめに

1 計画策定の背景・目的

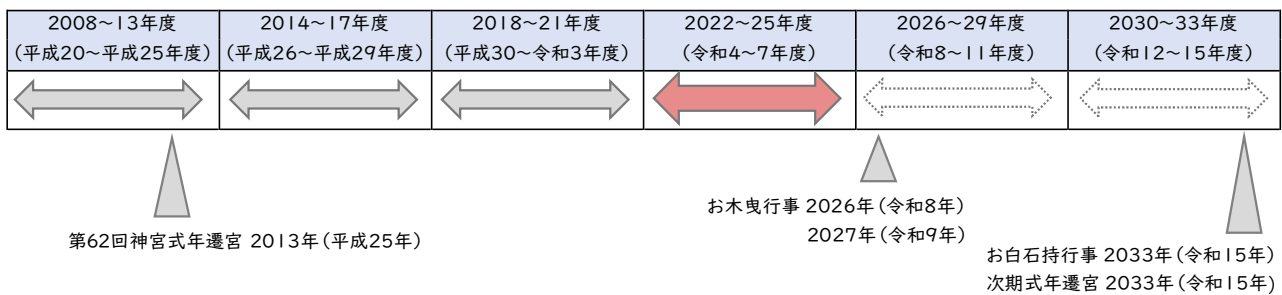
伊勢市は、古くから「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた神宮や、数多くの魅力的な地域資源を有し、全国から多くの観光客を迎え入れてきた観光都市です。

2013年(平成25年)には第62回神宮式年遷宮が執り行われ、その年の神宮参拝者数は記録が残る1895年(明治28年)以降最高の約1,420万人を記録しました。これら神宮への注目度の高まりによる観光客の増加を受け、2014年(平成26年)に4か年の計画を策定し、その後継計画として2018年(平成30年)には、観光客の満足度の向上と、継続的な誘客に向けた、前「伊勢市観光振興基本計画」を策定し、社会の動向にあわせて方向性を見直しを行いつつ、幅広い観光振興の取組を進めてきました。

しかし、2020年(令和2年)の新型コロナウイルス感染症拡大の影響による全国的な観光産業の大きな打撃や生活様式の変化などにより、観光を取り巻く状況は大きく変化し、観光のあり方も変化を迫られつつあります。また、本計画期間の最終年度となる2025年度(令和7年度)は、お木曳行事の直前となると想定されるため、次期式年遷宮に係る諸行事の開始を視野に入れつつ、4年間に取組む方針をまとめ、社会動向やニーズに即した新たな「伊勢市観光振興基本計画」を策定しました。

2 計画の期間

前「伊勢市観光振興基本計画 2018年(平成30年)3月改訂」を引き継ぎ、本計画の対象期間は、2022年度(令和4年度)から2025年度(令和7年度)までの4年間とし、計画最終年度から始まる次期式年遷宮諸行事開始を見据えて、計画の推進に取り組んでいきます。

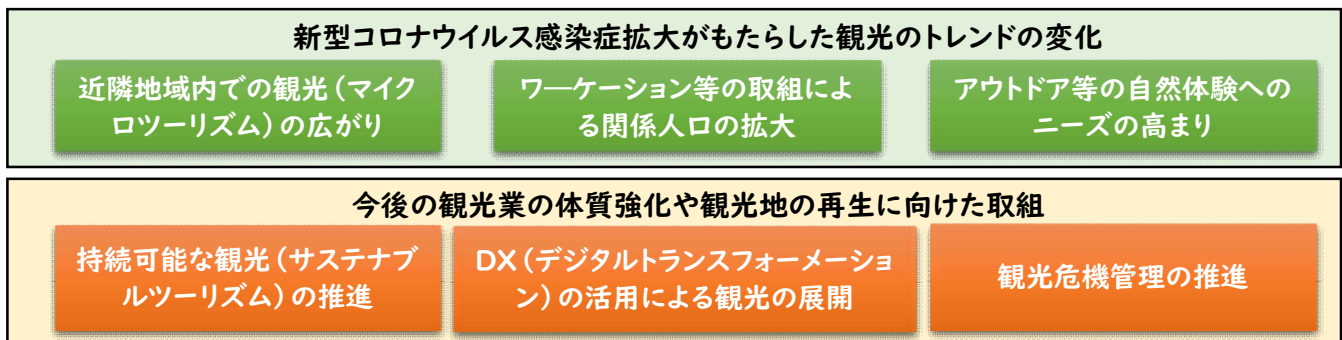


3 計画の位置づけ

本計画は、伊勢市のまちづくりを進める上での最上位計画である「第3次伊勢市総合計画」で掲げた目標(目指す姿)の実現に向け、観光分野における施策及び事業の推進指針を示すものになり、また、他分野の計画や他部局で実施する施策等における観光分野に係る部分は整合を図るものとします。

第2章 社会動向・観光動向(伊勢市を取り巻く観光の現状)

1 観光を取り巻く社会動向



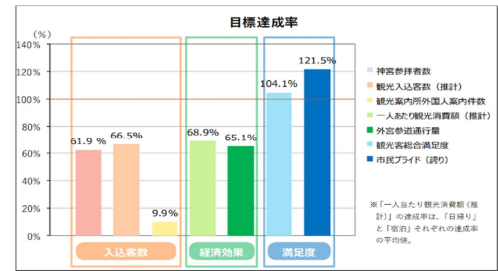
2 三重県の観光動向

『観光誘客の推進「世界の人びとを魅了する三重の観光」』と『観光産業の振興「TOKOWAKA~変革し続ける観光産業へ~」』の2つの視点に基づき、イベントに頼らずに誘客できるような三重のブランド力を向上させ、持続可能な観光の実現に向けてオール三重での取組を推進しています。

第3章 伊勢市の観光の現状と課題

1 前計画の検証

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「入込客数」や消費額等の「経済効果」については目標達成に至りませんでした。一方で観光客の満足度や市民プライドは目標を達成し、特に市民プライドについては大きく向上しています。



基本方針に基づく取組と検証

基本方針	状況	課題
1 「神宮を中心とした物語性」の発掘	△	コロナ禍を逆手に取る施策が必要。密にならない「神宮に繋がる観光資源」を中心に物語性を持った市内周遊を促進する等。
2 産業視点での観光の推進	△	ウィズコロナ・アフターコロナ時代を生き残るための情報発信や観光消費額の回復に向けた各種取組を進める必要がある。
3 ターゲット別PR戦略と検証可能な取り組み	△	コロナ禍でも伊勢を好きで訪れてくれた多くのリピーターの方に感謝しつつ、その方々に続く新規来訪者・リピーターを獲得できるように、適時・適切な情報発信を行う。
4 笑顔で迎える受入環境・受入基盤の整備	○	どのような時でも安心して快適に観光ができる受入環境・受入基盤の整備を進め、ウィズコロナ・アフターコロナ時代でも選ばれる観光地づくりを進めていく。
5 「競争と協働」視点での連携の推進	△	目的や有効性を十分に検討し、双方有益となるような事業を精査して進めていく。
6 市民力の向上、人材育成及び活用推進	○	コロナ禍においても、未来の観光都市伊勢を支える人材育成を進めるためのさらなる取組の充実が必要である。

2 伊勢市の観光動向

本計画は、以下のようなデータや調査結果などを活用し、その方向性や取組などの検討などを行っており、また、これらの調査を基にして今後の計画の検証・見直しなども行っていきます。

観光動態調査

これまでの観光客数の推移や、伊勢を訪れた観光客の満足度・周遊したスポット数などの統計情報をまとめた調査です。調査結果を見ると、本計画の期間は式年遷宮の20年の間で最も神宮への参拝者数が少なくなる傾向があり、また、近年は新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の数は大幅に減少しているため、観光産業の再生が必要です。

一方で、観光客の満足度はコロナ禍の影響を受ける以前よりも上昇しており、これは観光客減少による密の回避や混雑の緩和が影響していると考えられます。

GPS データによる観光動態調査

携帯電話の位置情報を基にして、伊勢を訪れた人がどのように市内を周遊しているかを調査したものです。来訪者数や周遊スポットだけではなく、その人がどこから来訪したかやなども把握することができ、本計画策定後も継続して調査を行うことで計画の見直しや誘客戦略の検討材料とします。



ワーキンググループやヒアリングでの多様な意見の把握

計画策定に際し、伊勢の観光に携わる方々や専門家を交えたワーキンググループ、個別ヒアリングを行い、伊勢の観光課題や観光の新たな視点についての意見交換・聞き取りを行いました。

【主な意見】

SDGs	<ul style="list-style-type: none"> SDGs等を学ぶ場所として、伊勢市の観光資源を生かしていけたら、より選ばれる旅行場所になるのではないかと。 これからはSDGsに関心のある人が観光客として来訪するのに、このままでいいのかなと思う。
観光危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 災害だけでなく、コロナ等の感染症、テロなど様々な危機がある。柔軟な想定、広域な危機管理が必要。
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所の案内機能としての変化が求められている。DXの活用、非接触案内と対面案内との役割分担が必要。
更なる観光振興に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 地域が一丸となって、将来を担う次世代の育成に取り組んでいく必要がある。 観光による経済効果を市内にもたすためには、宿泊の振興は欠かすことができない。 市民においても常若の精神に基づいた持続可能な観光地としてのまちづくりに対する理解と、お客さんをもてなすような意識を醸成することが必要。 コロナ禍の状況において駐車場にすぐ止められたことが良かったという声も聞いた。観光客の増加は、時として必ずしも良いことであるとは言えない(オーバーツーリズムの視点)。

第4章 伊勢市の観光が目指す姿

1 伊勢市の観光における大切にしたい考え

本計画では、以下の5つを計画において考え方の根底とする「基本理念」と定め、加えて、近年観光においても重要視されるSDGs(持続可能な開発目標)と、伊勢の「常若の精神」を掛け合わせることで、伊勢市の今後のありたい姿の実現を目指します。

- ①日本を理解し、伊勢の“常若の精神”を理解してもらう
- ②さまざまな人が安全に安心して楽しめるまち
- ③訪れる人が満足のできるまち
- ④住む人も満足ができるまち
- ⑤観光を通じて経済的効果を高める

常若の精神

【常若の精神とは...】

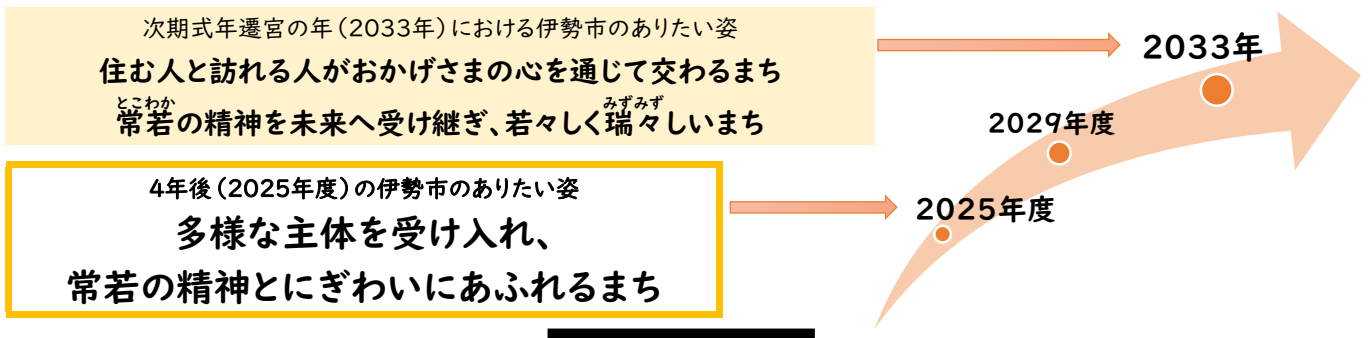
伊勢の地で20年に一度繰り返される遷宮は、古(いにしえ)と今と未来がつながる神宮の行事です。そこには、古いものや伝統を大切にしながら、常に若々しく生き、その精神を子孫へ伝えたいと願う人々の思いが重なっています。

SDGsと観光

国連世界観光機関(UNWTO)は、「すべての目標に対して、観光は直接的、または間接的に貢献する力があり、持続可能な開発目標の達成に向けて重要な役割を担っている」旨、宣言している。

伊勢市のありたい姿

上記の考え方を踏まえ、次期式年遷宮の年(2033年)における伊勢市のありたい姿と、本計画の計画期間である「4年後(2025年度)のありたい姿」を以下のように決めました。また、その達成状況を測る指標として、3つの目標指標(KGI)を設定しています。



本計画の達成状況を測る目標指標(KGI)

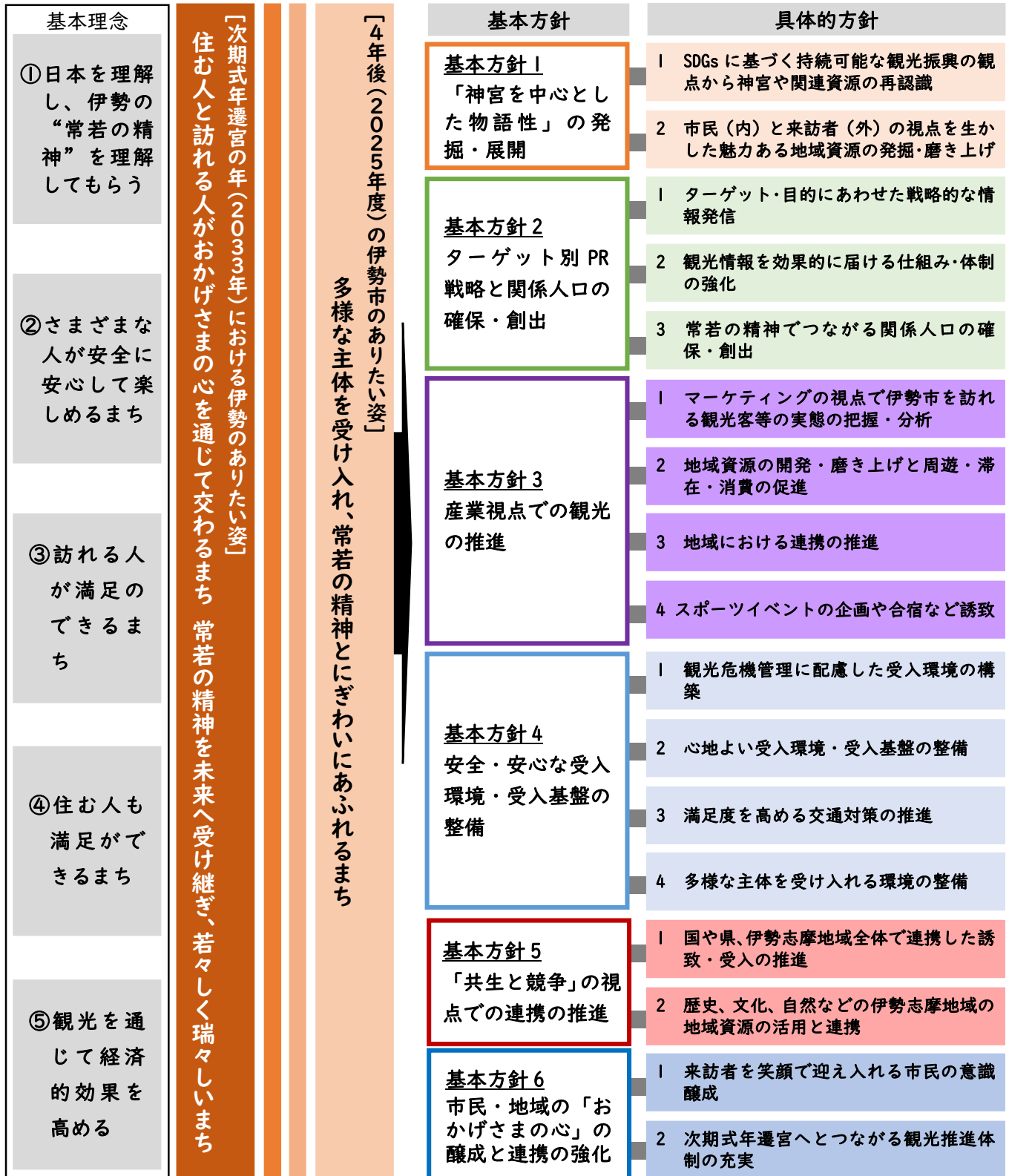
神宮参拝者数	観光地平均立ち寄り箇所数(日帰り)	市内宿泊者数												
<p>伊勢市観光の代表的な存在であり、主たる目的地となる神宮(内宮・外宮)の参拝者数について、コロナ禍前の賑わいへ再生を目指します。</p> <table border="1"> <tr><td>現状値 2021年(令和3年)</td><td>3,827,451(人)</td></tr> <tr><td>目標値 2025年(令和7年)</td><td>8,000,000(人)</td></tr> </table>	現状値 2021年(令和3年)	3,827,451(人)	目標値 2025年(令和7年)	8,000,000(人)	<p>神宮参拝者に市内他地域への周遊を促し、観光地の分散化・混雑の平準化による安全・安心の確保と伊勢市全体への経済効果の波及を目指します。</p> <table border="1"> <tr><td>現状値 2021年(令和3年)</td><td>2.85(地点)</td></tr> <tr><td>目標値 2025年(令和7年)</td><td>3.00(地点)</td></tr> </table>	現状値 2021年(令和3年)	2.85(地点)	目標値 2025年(令和7年)	3.00(地点)	<p>伊勢市内での宿泊者数を増加させることで、市内消費の拡大を図り、観光による地域経済への波及効果を一層高めていくことを目指します。</p> <table border="1"> <tr><td>現状値 2021年(令和3年)</td><td>467,563(人)</td></tr> <tr><td>目標値 2025年(令和7年)</td><td>700,000(人)</td></tr> </table>	現状値 2021年(令和3年)	467,563(人)	目標値 2025年(令和7年)	700,000(人)
現状値 2021年(令和3年)	3,827,451(人)													
目標値 2025年(令和7年)	8,000,000(人)													
現状値 2021年(令和3年)	2.85(地点)													
目標値 2025年(令和7年)	3.00(地点)													
現状値 2021年(令和3年)	467,563(人)													
目標値 2025年(令和7年)	700,000(人)													

第5章 伊勢市の観光施策

今回策定した伊勢市観光振興基本計画は、以下のような全体像・流れで作成をしています。

「基本理念」に基づく「ありたい姿」と、それを達成するための「基本方針」と実際に取り組むことを表した「具体的方針」が示されています。

それぞれの基本方針の基には、それを具体的に記載した具体的方針を示しており、6つの基本方針に示した内容をどのように進めていくかを記載しています。



基本方針 1

「神宮を中心とした物語性」の発掘・展開



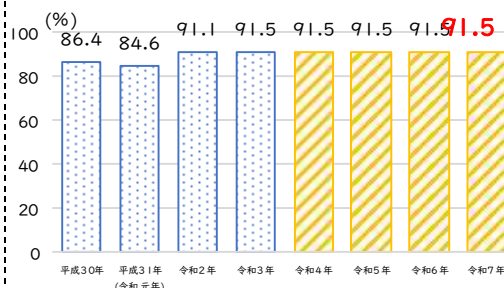
伊勢市は、古(いにしえ)から神宮がご鎮座するまちとして、世界に誇れる歴史・文化などの資源を数多く有することはもちろん、神宮が古くから培ってきた日本人の心の原点とも言える精神性や、その伊勢市で暮らす市民の営み・心持ちもあわせて、伊勢ならではの魅力として今も多くの人達を惹きつけています。

近年においては、SDGsといった、神宮が培ってきた精神性と類似する考え方が世界中の人々にとっての行動指針になるなど、歴史・文化だけではなく、心持ちの面も伊勢市の誇れる魅力資源となっている一方で、そのような魅力を市民が気づいていない、そして市外の人に十分に知られていないとも言えます。

神宮を中心とし、伊勢市全体に広がる観光資源や精神性の魅力を再度地域の人々、そして伊勢市を愛する市外の人々も巻き込んで掘り起こし・磨き上げPRすることで、新たな交流を生み出します。

【観光客総合満足度】

コロナ禍の状況で過去最高の数値(91.5%)となりました。神宮を中心とし、伊勢市全体に広がる観光資源や精神性の魅力を観光客に伝え、コロナ禍前の賑わいへ再生した際も、この満足度を維持し続けることを目指します。



SDGsに基づく持続可能な観光振興の観点から神宮や関連資源の再認識

神宮の歴史文化や価値、魅力をより深く知ってもらうために、SDGsの考え方にも通ずる“常若の精神”を伊勢市全体に波及・浸透させるとともに、来訪する観光客にも理解・共感してもらえるよう取り組みます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆神宮の持つ物語性・精神性や価値の再認識と共有
- ◆神宮関連施設等の文化施設認知度向上に向けた魅力向上への取組と利用促進

市民(内)と来訪者(外)の視点を生かした魅力ある地域資源の発掘・磨き上げ

市内外の人々の視点を通じて伊勢市の様々な地域資源を磨き上げ、まち全体の魅力向上に取り組みます。特に市外からの視点を通じて新たな伊勢市の魅力を掘り起こすことで、伊勢市観光の魅力の底上げや新たなコンテンツの創出につなげます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆自然、景観、歴史・生活文化、食、芸術性などの様々な地域資源をまち全体で発掘・磨き上げ
- ◆SDGsの視点による持続可能な観光地としての魅力や付加価値の向上

基本方針 2

ターゲット別PR戦略と関係人口の確保・創出



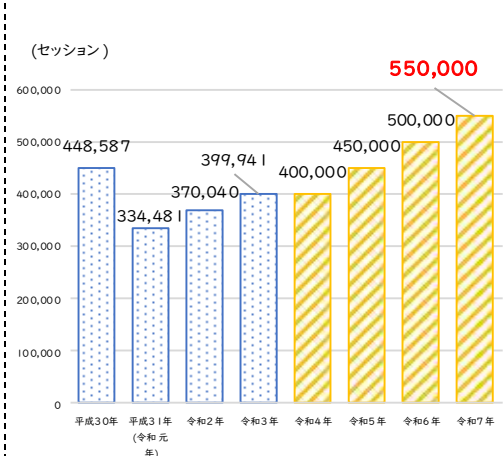
伊勢市の魅力をたくさんの人に知っていただき、来訪を促すためには、明確なターゲットを定め、それらの人々の心に響くPRを仕掛けていくことが重要になります。コロナ禍においても、アフターコロナを見据え、継続的に情報を発信し、伊勢市への来訪意欲を高めていくことが重要となります。

また、情報発信や来訪をきっかけに、伊勢市の持つ歴史文化や物語性の魅力に共感していただき、もっと伊勢に関わりたいという人を増やし、単なる観光を越え、更に強くこの伊勢の地域とつながりを持つ「関係人口」の創出が आवश्यकとなっています。

【伊勢市観光協会ホームページの

セッション数】

正確な観光情報を発信する伊勢市観光協会ホームページのセッション数増加により、神宮をはじめとした伊勢市の魅力を多くの人に知っていただき、来訪の意欲を高めることを目指します。



ターゲット・目的にあわせた戦略的な情報発信

神宮の歴史文化や価値、魅力をより深く知ってもらうために、SDGsの考え方にも通ずる“常若の精神”を伊勢市全体に波及・浸透させるとともに、来訪する観光客にも理解・共感してもらえるよう取り組みます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆明確なターゲットに向けた誘客PR・キャンペーンの実施
- ◆伊勢市の魅力や価値を理解してもらうための情報発信

観光情報を効果的に届ける仕組み・体制の強化

市内外の人々の視点を通じて伊勢市の様々な地域資源を磨き上げ、まち全体の魅力向上に取り組みます。特に市外からの視点を通じて新たな伊勢市の魅力を掘り起こすことで、伊勢市観光の魅力の底上げや新たなコンテンツの創出につなげます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆効率的な発信を行うための観光情報媒体の整理・強化
- ◆観光案内所等での効果的な情報発信

常若の精神でつながる関係人口の確保・創出

コロナ禍において伊勢市への来訪が困難となってしまった人の再来訪につながる関係づくりを強化するとともに、国内外に多く潜在する、伊勢市を愛するファン、常若の精神に関心を持ってくれる関係人口の確保・創出・拡大・定着を図ります。

【4年間で取り組むこと】

- ◆伊勢市のファンやリピーターとのつながりの構築・深化
- ◆学習型旅行の受入対応の支援
- ◆デジタル技術等を活用した新たな需要の喚起

基本方針 3

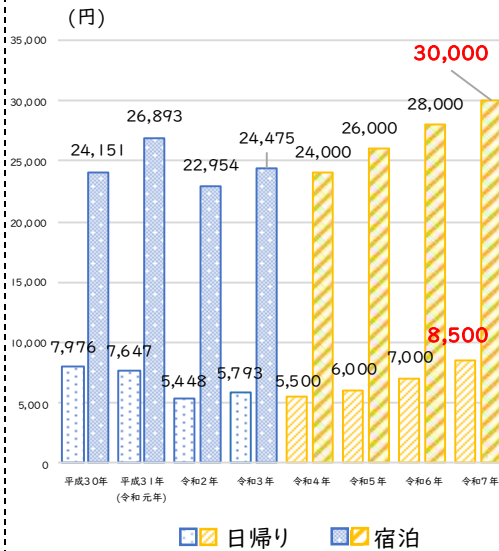
産業視点での観光の推進



観光とは、人生の楽しみであると同時に、観光地に住む人々の暮らしを豊かにする重要な要因の一つです。地域の人々を豊かにするには、産業としての視点をもって、消費を生み出し、地域に継続して効果を波及させることが重要です。そのために、マーケティング調査や、調査に基づく戦略の構築・実行、消費を促進するための観光資源へのストーリー性が求められます。

【一人当たりの観光消費額】

市内の滞在時間の延伸や周遊を促進させ、地域経済の活性化を図るため、観光客一人ひとりの観光消費額の増加を目指します。



マーケティングの視点で伊勢市を訪れる観光客等の実態の把握・分析

観光実態調査を継続的に実施し、観光動向等の実態把握を行うとともに、デジタル技術等を活用した調査方法やマーケティングの手法を研究するなど、より効果的な観光実態の把握・分析と、その分析に基づいた観光マーケティングを行います。

【4年間で取り組むこと】

- ◆伊勢市を訪れる観光客の実態の把握・分析
- ◆デジタル技術等を活用した調査手法の研究と実施

地域資源の開発・磨き上げと周遊・滞在・消費の促進

観光客の満足度や市内での宿泊や滞在時間延伸、観光消費額拡大のため、既存の地域資源・観光コンテンツの魅力向上を図るとともに、新たな地域資源の開発、観光コンテンツの造成を進めます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆宿泊や周遊の促進による滞在時間の延伸と観光消費の拡大
- ◆地域資源を活用した滞在消費ストーリー・体験メニューの開発

地域における連携の推進

個店やスポット、エリアごとの振興だけでなく、伊勢市全体で連携した周遊の促進と来訪満足度の向上に取り組めます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆地域が一体となった来訪者の満足度の向上及び消費を広げる取組
- ◆地域産業と連携した特産品等の販路拡大や観光コンテンツ造成の支援

スポーツイベントの企画や合宿など誘致

伊勢市の魅力の周知、新たな交流を生み出すきっかけや伊勢市への再来訪の動機づけとなり、団体旅行の受入拡大にもつながる、スポーツイベントの企画や大規模なスポーツ合宿・集大会等の誘致を推進します。イベント等は既存概念に捉われないこと、伊勢市の独自性を発揮しつつ、地域への経済効果も考慮して取り組みます。

【4年間で取り組むこと】

- ◆新たな交流や誘客のきっかけとなるスポーツイベントの企画・合宿等の誘致
- ◆伊勢市の独自性を発信するイベントの企画、伝統行事の継承・磨き上げ

基本方針 4

安全・安心な受入環境・受入基盤の整備



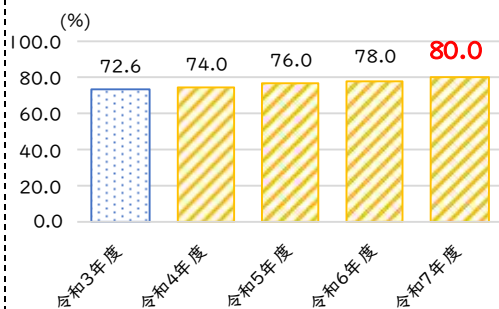
伊勢市には神宮をはじめとした多種多様な資源があり、特に歴史文化を感じる観光におけるポテンシャルには特筆すべきものがありますが、一方で、観光ニーズは多様性を極め、日々、求められる条件は変わりつつあります。近年においては、新型コロナウイルス感染症や自然災害などへの備えや、多様性に対応した受入環境なども求められています。

これらのニーズへの対応のためには、最新のデジタル技術の活用や、多様な主体による受入環境の構築に取り組み、伊勢のまちを形作る歴史文化とのバランスを取りつつ、訪れる人も住む人も双方が満足できる受入基盤の構築が必要です。

【市内観光地で安心して観光客を迎え入れられる

感染症対策が行われていると思う市民割合】

観光客にとっても市民にとっても安全・安心な受入環境を作り上げるため、観光地の感染症対策が「できている」・「どちらかといえばできている」と思う市民の割合向上を目指します。



観光危機管理に配慮した受入環境の構築

従来の自然災害等への対策に加えて、感染症による地域経済への影響なども含めて、観光危機管理に配慮した受入環境を整え、安全・安心で持続可能な観光を支える環境整備を推進します。

【4年間で取り組むこと】

- ◆安全・安心を担う観光危機管理の推進
- ◆観光客の平準化・分散化の推進

心地よい受入環境・受入基盤の整備

伊勢市を形作る歴史・生活文化とのバランスを考慮し、良好な景観形成を推進するとともに新しい生活様式に対応した安全・安心に滞在できる受入環境の取組を推進します。

【4年間で取り組むこと】

- ◆美しいまちなみ・景観を生かしたまちづくりの支援
- ◆新しい生活様式に対応した快適な滞在環境の整備
- ◆来訪者の多様なニーズにあわせた案内機能の検討と観光案内所の機能整理

満足度を高める交通対策の推進

伊勢市内の移動手段、周遊手段の確保と利便性の向上に向けて、公共交通の利用促進を図り、渋滞緩和等の交通対策を推進します。また、デジタル技術等を活用した交通情報提供や将来的なMaaSの実現に向けて、地域活性化を目指すモビリティサービスの継続的な検討を行います。

【4年間で取り組むこと】

- ◆満足度向上につながる交通対策の推進
- ◆正確で便利な交通情報の発信

多様な主体を受け入れる環境の整備

国籍や生活文化の違い、障がいの有無などに関わらず、快適に心地よく伊勢市を来訪していただける環境を整備します。

【4年間で取り組むこと】

- ◆バリアフリー観光の満足度を高める環境整備
- ◆外国人観光客の満足度を高める受入環境・体制の整備

基本方針 5

「共生と競争」の視点での連携の推進



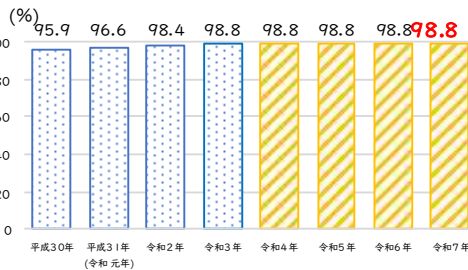
観光誘客や観光コンテンツの開発においても、伊勢市単独ではなく、周辺自治体と連携し、お互いの魅力を掛け合わせることで、多様なニーズに応じた選ばれる観光地域としてより効果的な情報発信が可能になります。

また、このコロナ禍による観光客の減少を伊勢市の観光を見つめ直す機会と捉え、ウィズコロナ・アフターコロナにおいても、周辺地域との「共生」だけでなく、時にはライバルとして「競争」し、互いが切磋琢磨することによって、双方の持つ地域資源やコンテンツの魅力を高め、更なる発展を目指します。

【再訪意向率】

伊勢市及び周辺地域が、観光客に繰り返し選ばれる観光地となること、そしてその中心が伊勢となることを目指し、「再訪意向率」を目標と定め、伊勢市の再訪意向率を伊勢志摩地域全体の再訪意向率以上となる状態を維持し続けることを目指します。

伊勢志摩地域全体の再訪意向率の水準以上を維持する



国や県、伊勢志摩地域全体で連携した誘致・受入の推進

共生の視点から、県および伊勢志摩周辺地域と連携し、歴史文化や食、レジャー、バリアフリー観光など、地域一体で魅力を伝える情報発信や旅行商品の造成を行い、地域全体での誘客促進を図ります。加えて、競争の視点から、選ばれる観光地として切磋琢磨し自らの地域資源の磨き上げを図ることで、地域全体での魅力向上につなげます。

【4年間で取り組むこと】

◆地域全体で連携した誘致・誘客の推進

歴史、文化、自然などの伊勢志摩地域の地域資源の活用と連携

コロナ禍により、自然体験・アウトドアのニーズが高まる中、伊勢志摩地域への来訪者のニーズも変化していることを踏まえて、伊勢市が有する神宮の精神性や物語性、歴史文化などの魅力に加え、鳥羽・志摩などの自然を生かしたコンテンツを組み合わせ、伊勢志摩地域の観光の魅力としてPRし誘客に取り組みます。

【4年間で取り組むこと】

◆「ナショナルパーク」としての特徴を生かした事業の推進

基本方針 6

市民・地域の「おかげさまの心」の醸成と連携の強化



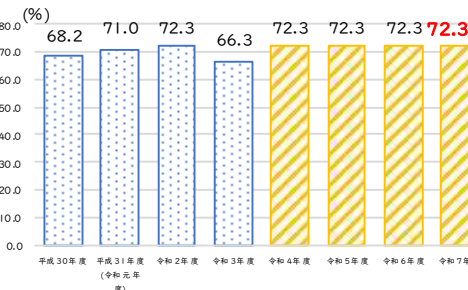
観光客にとっては、旅先で出会う様々な地域の人々などの触れ合いも観光の醍醐味です。近年、インターネットやSNSにより簡単に観光地の情報を得られるようになった社会の中、旅先での人々との交流や、その地域の人々の暮らしに対する注目度が改めて高くなっています。また、満足いただく交流を行うためには、観光客を受け入れる市民側の共感を得る必要があります。

市民がこれまで多くの観光客を迎え入れ、繁栄してきた伊勢市の観光文化について学ぶ機会を設けることで、「おかげさまの心」(※)をもって観光客を迎え入れることへの誇りを醸成することが大切です。そのうえで、地域が一体となって観光客を迎え入れる観光地として発展し続けることを目指します。

※ おかげさまの心…市民の神宮への感謝から生まれる心の意味として使っています。その心がにじみ出て、訪れた方々に伝わり、「おもてなしの心」として感じられる姿を目指します。

【市民の満足度(市民プライド・誇り)】

市民満足度は令和2年度に過去最高の数値となりましたが、令和3年度においては6%の落ち込みが見られます。まちの観光地としての価値や魅力の高まりが一層認知されることで、観光客を受け入れる市民の満足度(プライド)も高まるため、目標指標においては、過去最高となった令和2年度の以上の水準を目指します。



来訪者を笑顔で迎える市民の意識醸成

伊勢市の観光を形作る歴史文化や伝統・精神性を市民に愛されるものとして後世に引き継ぐとともに、伊勢市に住む人も訪れる人も双方が満足できる観光まちづくりを進めていくため、観光に対する市民の理解・協力を深め、来訪者を笑顔で迎える市民の意識醸成を図ります。

【4年間で取り組むこと】

◆中長期的な視点による観光まちづくりの担い手の育成

次期式年遷宮へとつながる観光推進体制の充実

次期式年遷宮に向けて2025年度(令和7年度)から様々な行事が行われることにより伊勢市に新たな人の流れを生み出す動きが生じることを見据えて、市民・地域の意識や結束力を高めていくとともに、行政はじめ各種関連団体・関係機関、事業者等が一体となって次期式年遷宮に向けた機運醸成や観光推進体制の充実を図ります。

【4年間で取り組むこと】

◆次期式年遷宮を見据えた市民力・地域力の向上

◆関係機関と連携した取組の推進

第6章 計画の推進・実現に向けた推進体制

これまでに記載している計画を推進・実現するために、PDCAサイクルに基づき計画を運用していきます。

その体制として、継続的な観光事業者への聞き取りや、伊勢市観光振興基本計画推進委員会内に設置した検証部会を年1回以上の開催、市民との意見交換の場を設け、効果的な事業の展開や改善に向けた取組を進めます。

2025年度(令和7年度)に本計画の見直しを実施し、次期計画を策定し、次期式年遷宮の年(2033年:令和15年)における伊勢市のありたい姿の実現を推進していきます。